

# 指導のポイント

監修：白梅学園大学大学院／無藤 隆

執筆：共立女子大学／白川佳子(ねらい)

東京家政学院大学／和田美香(導入・展開の言葉かけ)

國學院大學／吉永安里(小学校へのつながり)



『キンダーまなびきっず』は、5歳の時期にふさわしい「考える力」が育つことを目指し、「ことば・かず・くふう」の3つの柱で、子どもたちが楽しく考えることができるようなページ構成になっています。子どもが日ごろの遊びや日常生活の体験をイメージし、自然に無理なく、楽しい気持ちで取り組めるように、「ねらい」「導入・展開の言葉かけ」「小学校へのつながり」のポイントを本書では紹介しています。保育の中で子どもたちと取り組む際に、ぜひ活用ください。

## ことば(言葉・文字)

言葉のつかい方や文字の書き方、漢字の成り立ちについて楽しく学びます。

### ことば P.4~5 動詞

**ねらい** 絵を見ながら動きをまねしたり、絵と同じ動作をしたりすることを通して、動きを表す言葉である「動詞」について学びます。

#### 導入の言葉かけのヒント

「お月見」って知っているかな？ まん丸のきれいなお月さまを見ながら、お団子やススキを飾るよね」と問いかけ、お月見の体験を思い出してみよう。

#### 展開の言葉かけのヒント

「マッキーが、お団子の材料をこねて丸くしているね。何をしているのかな？」と問いかけ、「つくる」という動詞を見つけます。マッキーやナッキーの動作をまねしたり、「ほかにはどういふときにつかうかな？」などと、別の場面から考えてみたりしても楽しいでしょう。

#### ● 小学校へのつながり

「つくる」「たべる」「ひろう」と語尾を強調することで、終止形の語尾を伸ばすと「う」の音になる文法的特徴があることに気づけるとよいでしょう。のちの文法学習につながっていきます。



### ことば P.6~7 形容詞

**ねらい** 絵を見てそれぞれの言葉の意味や対義語を確認しながら、ようすを表す言葉である「形容詞」について学びます。

#### 導入の言葉かけのヒント

「長いススキだね。こっちはどうかな？」「大きいお団子、こっちはどうかな？」と絵を見て確認しながら、対になる言葉をクイズ形式で質問すると楽しいでしょう。

#### 展開の言葉かけのヒント

部屋を見渡して「このお部屋の中にも丸いものはあるかな？」「明るいものはあるかな？」と、生活や遊びの中のものから探してみてもよいでしょう。また、「これは熱いね」「これは甘いね」など、生活の中で形容詞を意識してつくと、次第に語彙が増えていきます。

#### ● 小学校へのつながり

対になる言葉(高い・低い、辛い・甘い)を、クイズ形式などで楽しみながら語彙を増やせるとよいですね。形容詞の終止形(連体形)は、語尾が「い」になる共通性にも気づけるとよいでしょう。



### ことば P.8~9 助数詞

**ねらい** かぞえ方が同じものには、どのようなものがあるのか理解しながら、もののかぞえ方である「助数詞」を学びます。

#### 導入の言葉かけのヒント

「いくつあるかな？ かぞえてみよう。傘が1本、2本……」と順番にかぞえていきます。シールを見ながら「この中で1本、2本とかぞえるものはあるかな？」と問いかけましょう。

#### 展開の言葉かけのヒント

「〇本とかぞえるものは、細長いね。〇枚とかぞえるものは、バラバラしているね」と形状を確認したあと、身のまわりのものについてもかぞえ方を質問するとよいでしょう。箸(膳)や豆腐(丁)など難しいかぞえ方も知らせると、新たな発見があって楽しいでしょう。

#### ● 小学校へのつながり

細長いものは「本」、薄いものは「枚」と、助数詞には一定の規則があります。身のまわりのものにどんな助数詞がつくのか関心をもち、つかい分けようとする意欲が、小学校以上の豊かな語彙習得につながります。



# かず (数量・図形)

思考力や認識力の礎となる、数や図形の基本的な概念について楽しく学びます。

## かず P.16~17 集合数

**ねらい** 2つの集合数を合わせて、提示された数にすることを学びます。

### 導入の言葉かけのヒント

「おおいそがしのパン屋さん、もうすぐお店が開くけれど、まだパンを全部並べられていないんだって。お手伝いしてあげようね」とごっこ遊びのように誘うとよいでしょう。

### 展開の言葉かけのヒント

「お店に並べるパンの数が決まっているよ。あんパンは5個だから、もういいね。チョコパンは、7個並べるよ。あといくつ並べたらいいかな？」と確認します。「余ったパンは食べちゃダメだよ。パン屋さんのトレイの上に並べてね」と、イメージを保ちながらシールを貼れるとよいですね。

### ● 小学校へのつながり

「5と2で7」といった集合数の捉え方に親しみましょう。「5から、あと2つで7」という順序数による理解も間違いではありませんが、集合数の操作がくり上がりのある足し算や大きな数の足し算の理解につながります。



## かず P.18~19 順序数(右・左)・集合数

**ねらい** 物の集まりの大きさを表す「集合数」と、ある物の順番を表す「順序数」の違いを理解しながら学びます。

### 導入の言葉かけのヒント

「お店が開いて、お客さんが来ましたよ。注文を聞いてトレイにパンをのせてあげてね」と誘います。左右を確認してから取り組むと、わかりやすいでしょう。

### 展開の言葉かけのヒント

集合数と順序数の違いに混乱しているような場合は、「右から2つはどれかな?」「右から2番目はどれかな?」と同じ方向と同じ数字をつかって質問をすると、その違いに気づけるでしょう。○番目の「目」を強く発音すると、より意識できますね。

### ● 小学校へのつながり

集合数と順序数のどちらを問われ、どのように答えるのか、キーワード(問:「いくつ?」答:「○つ」が集合数、問:「何番目?」答:「○番目」が順序数)を理解することで、安心して小学校の算数に取り組めるでしょう。



## すうじ P.24~25 時計

**ねらい** 一日の生活を振り返りながら、時間を意識し、時計の読み方に親しみます。

### 導入の言葉かけのヒント

「○○ちゃんのおうちには、どんな時計があるかな?」と時計の存在に気づかせ、おもちゃの時計などがあれば、触って楽しんでから取り組んでもよいでしょう。

### 展開の言葉かけのヒント

子どもによっては「長い針と短い針」を「おとなの針と子どもの針」と言い換えた方が理解しやすい場合があります。「とけいのうた」などをうたいながら取り組むと楽しいですね。生活の中で「いまは何時かな?」「○○ちゃんは、何時に寝るのかな?」などと話題にするとよいでしょう。

### ● 小学校へのつながり

まず短い針が「時」を表すことを理解し、数字をそのまま読むこと、針が数字の間にあるときは小さい方の数字を読むことを伝えます。次に長い針は「分」を表し、0から60の目盛りを読むように段階を踏むとよいでしょう。



# くふう (思考・創造)

自ら考え創意工夫する力(思考力・創造力)を養い、小学校での学びの土台を育みます。

## くふう P.28~29 系列

**ねらい** ものの順序の決まりを把握して、ゴールを目指して迷路遊びを楽しみながら規則や法則を学びます。

### 導入の言葉かけのヒント

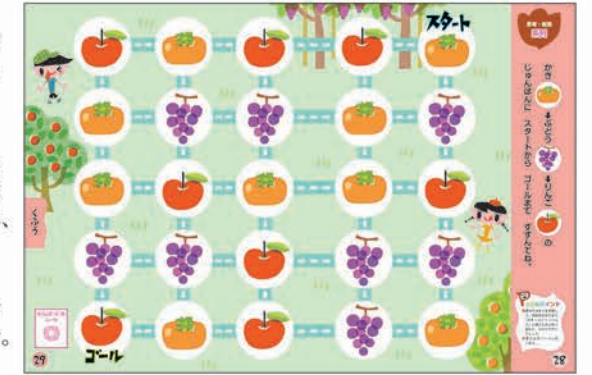
「果物畑に遊びにきたよ。畑の人が柿→ぶどう→りんごの順番に進んだら、食べてもいいよと言ってくれたよ」などと遊びの要素を入れて取り組んでみましょう。

### 展開の言葉かけのヒント

「柿→ぶどう→りんご」と唱えながら、食べるまねをしながら進んでもよいですね。わかりにくい場合は、おとなといっしょにやってみたと、「次はひとりで進んでみる?」と挑戦できるとよいでしょう。最後には「ああ、おなかいっぱい! ごちそうさま」と言ってゴールします。

### ● 小学校へのつながり

一連のパターンを記憶し、たくさんの刺激の中からそれを見つけ出す活動は、注意力や集中力など小学校の学びに必要な基礎的な力を培います。



## くふう P.30~31 比較

**ねらい** 4つのものを比較して、それぞれの共通性や差異性を発見し、それらを言語化する力を養います。

### 導入の言葉かけのヒント

「これは何かな?」「どんなときにつかうのかな?」と一つひとつ確認したあとに、「あれれ? 違う仲間が混ざっているよ。違うものはどれかな?」と探してみよう。

### 展開の言葉かけのヒント

「どこが違うのかな?」と理由を聞いてみましょう。わからないときは、「どんなときにつかうものかな?」「音が出るかな?」とヒントを与えてクイズのようにしてみます。うまく言葉で伝えられないときは、おとなが代弁して理解を促していくと、次第に言葉にできるようになります。

### ● 小学校へのつながり

分類を意識する力はさまざまな学習に関連します。どうしてそのように分けたのか、理由を言語化するように促すことで、概念の階層化が促され、さらに言葉の力も高まっていきます。



## くふう P.32~33 判断

**ねらい** 絵を見比べて全体像を把握し、部分的な違いを判断して、それらを言語化する力を養います。

### 導入の言葉かけのヒント

「トンボ君が「あれ、僕の影はどれだろう」と言っているよ。どれかな。教えてあげようか」と言葉かけると、意欲的に探すことができるでしょう。

### 展開の言葉かけのヒント

なかなか答えがわからない場合は、「耳はどうなっているかな?」「花の形はどうかな?」「葉っぱの数はどうかな?」とポイントを示していくと、違いを見つけやすいでしょう。違いがわかった場合は「どこが違うか教えてね」と言って、言葉で説明する機会をつくとよいですね。

### ● 小学校へのつながり

この活動は、部分と全体の両方に意識を交互に向けて同じ絵を見つける中で、集中力や記憶力、図形把握の力を養い、相違点や共通点を説明する中で豊かな言葉も育みます。

